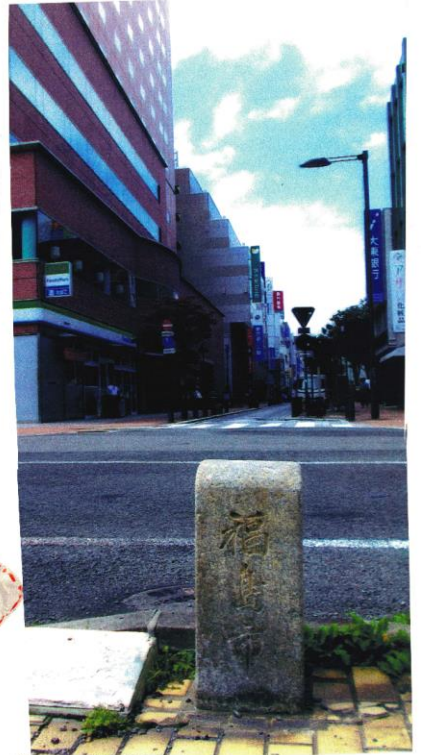


福島市の 道路元標

道路元標—大正9年から3年間に全国の市町村に建立され石製の碑で、道路法による道路の付属施設。現在では目立たない存在。

里程標—明治6年に明治新政府が全国の町村に建立させた道路元標の前身、木製のため朽ちてしまい、現物は存在しない。福島市西地区の場合は、佐原村大字木坂、上名倉村字芋田、下村字宿、荒井村字戸ノ内、土湯村字下ノ町に、それぞれ設けられていた。



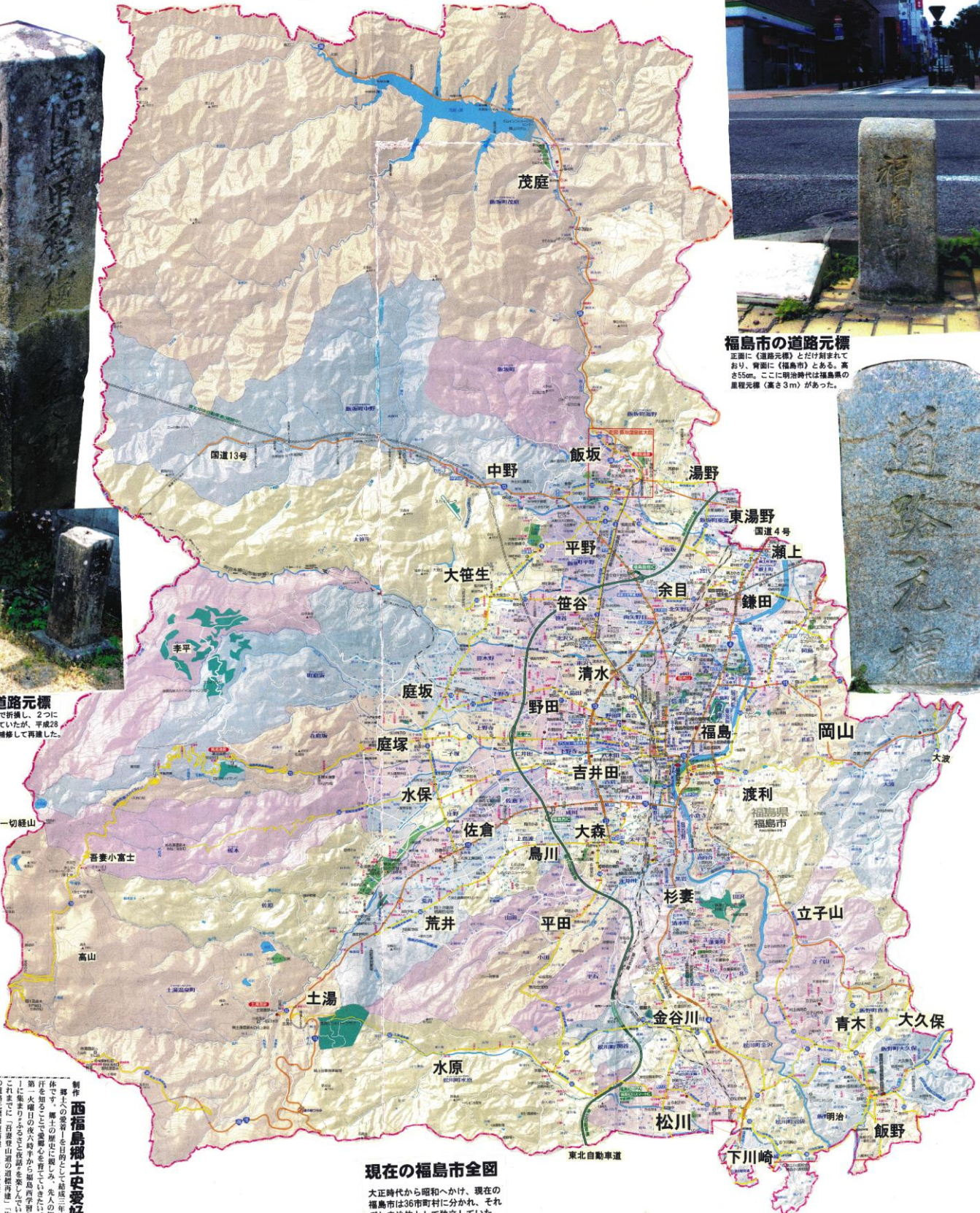
福島市の道路元標

正面に「道路元標」とだけ刻まれており、背面に「福島市」とある。高さ55cm。ここに明治時代は福島県の里程元標（高さ3m）があった。



佐倉村の道路元標

昭和30年代に事故で折壊し、2つに割れたまどになっていたが、平成28年4月に元通りに補修して再建した。



現在の福島市全図

大正時代から昭和へかけ、現在の福島市は36市町村に分かれ、それぞれ自治体として独立していた。

制作 西福島郷土史愛好会
郷土の愛を目的として昭和三年目の図
冊です。郷土の歴史に親しみ、先人の智慧と
行を伝えることに心をこめて、第一回は「街
」と「大正時代の福島市」から取り上げ、毎
二、三日の休刊期間を設けてお楽しみしてま
す。この冊子は、郷土史愛好会「西福島郷
」の道路元標調査の一環として制作され、
七〇年記念として、郷土史愛好会「西福
」の会報「西福島郷土史」に掲載されてい
ます。今回の冊子も「一冊です。多くの人
に仲間として会員になつてほしい。私たち
は同好の方の参加をお待ちしております。